

会議結果報告書

令和5年7月21日

会議の名称	令和5年度第1回志木市立図書館協議会
開催日時	令和5年7月21日（木）10時00分～11時28分
開催場所	柳瀬川図書館 2階 視聴覚室
出席委員	原藤光委員（会長）、竹前榮二委員（職務代理）、阿部剛委員、 内田征男委員、小林美里委員、矢部英子委員、石川敬史委員 （計 7人）
欠席委員	亀井沢真喜子委員、船平舞委員、宮下博委員 （計 3人）
説明員職氏名	（柳瀬川図書館）桜谷館長、隅田学校図書館事業推進アドバイザー （いろは遊学図書館）樺嶋館長 （宗岡公民館）佐野館長 （宗岡第二公民館）長谷川総合福祉センター長 （計 5人）
議題	(1) 市立図書館の学校図書館運営支援事業について (2) その他
結果	(傍聴者 0人)
事務局職員	早川主査

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 あいさつ 原藤会長

3 議事

(1)市立図書館の学校図書館運営支援事業について

※配布資料をもとに柳瀬川図書館より説明

会長) 学校図書館のシステムについては、図書館協議会で今まで話題に挙がった記憶が無い。どのようなものか、現状どのような様子なのか説明を願う。

説明員) 現在、学校図書館には貸出・返却・検索とひとつおりの図書館の業務ができるシステムが入っている。しかし、学校同士の連携はしていないため、他校の所蔵状況がわからない。そこで、他校の状況、市立図書館の所蔵状況がすぐわかり利用につなげることが出来るよう、システムを連携させたい。

委員) 不読率とは、どのようなものか。また、集計方法を知りたい。

説明員) 1ヶ月に1冊も本を読まなかった子どもの割合のことである。教科書、参考書、漫画、雑誌は対象外である。また、集計については、クラスごとに先生が子どもに聞き取っている。

委員) 連携はしていなくてもシステム化されているとのことだが、利用率などのデータは出ているのか。また、電子書籍の利用率などは、いかがか。

説明員) 利用率ではないが、どの程度本を読んでいるかという聞き取り調査の結果はある。令和4年度は、1ヶ月に10冊以上の本を読んでいる小学生が約47%、中学校が約8%である。電子書籍の利用率については調査していない。

委員) 不読率を改善するため、指導するだけでなく、学校生活の中で読書の時間を設けるなど、具体的な取り組みは行っていないのか。

説明員) 小学校では全校で朝などの時間を活用して読書を行っている。中学校では、読み聞かせ等の本に触れ合う時間を積極的に設けている学校もある。いずれも指定した本を読むのではなく、自分で自由に選んだ本を読む時間となっている。

会長) 「第三次志木市子ども読書活動推進計画」を推進する手段として“市立図書館の学校図書館運営支援事業”が打ち出されたと思うが、事業のねらいや期待される効果はどのようなものか説明を願う。

説明員) 「第三次志木市子ども読書活動推進計画」の目標として掲げているのは不読率を小学生2%以下、中学生5%以下とすることである。この目標を達成するとともに、事業の推進によって子どもたちの確かな学力の向上を図ることがねらいである。全国

学力・学習調査の結果によると、当市は、思考力・読解力に課題がみられるのが現状である。読解力を身につけるためには読書活動が重要と考えている。子どもたちは忙しく公共図書館に足を運ぶのが難しくなっているので、子どもたちに一番身近にある学校図書館での読書活動を活発にするために、この事業を打ち出した。

委員) 市立図書館の学校図書館への連携・支援というのは他自治体でも課題となっているが、志木市の取り組みは包括的・積極的な内容であると感じた。特に、アドバイザーが学校を巡回・訪問しているということが重要だと感じた。読書活動の推進には本のやり取りだけでなく関わる人同士のつながりを大切に積み重ねていくことで実っていくものである。ただ、システムの連携や電子図書のことなどを含め、今後5年間程度の計画を示してもらおうと事業の全体像がわかり議論がしやすい。

説明員) 今後、読書活動推進について3年くらいの期間では計画しており、その方策の一つとして学校図書館事業推進アドバイザーの継続や学校運営マニュアルの作成などを考えている。それら推進策についても、今後ご意見をいただきたいと考えている。

委員) 学校図書館事業推進アドバイザーに実際に活動したなかでの感想を聞かせてほしい。

説明員) 学校図書館員は学校の中に同じ職種の人がない。また、殆どの学校図書館員が、勤務時間が短く教員と話をする機会が中々取れない、本や図書室の環境整理が進まないという悩みを抱えていた。訪問においては、教員と学校図書館員との情報共有に努めたなかで、学校図書館員の熱心さや学校側の読書に対する意識の高さを強く感じた。情報共有をさらに密に行っていくことで、学校図書館員のスキルも上がり、子どもたちの読書意識も高まると感じている。

会長) 協議会として、この事業に対し、学校図書館事業推進アドバイザーが活動しやすいように、また地域とのつながりなどについて助言していくことができるのではないかと、思う。そのような視点から、また、その他の意見はいかがか。

委員) 学校でボランティアをしているが、先生と学校図書館員の連携が深いと学校での読書活動が盛んだと感じている。学校図書館員の勤務時間が短いため、保護者のボランティアの力を活用して何とか運営しているように感じた。学校図書館員の業務量は多岐にわたっており、圧倒的なマンパワーの不足を感じている。学校図書館の実際の運営を学校図書館員だけにまかせるのは無理があるのではないかと。

会長) 学校側の意見はいかがか。

委員) 学校図書館事業推進アドバイザーの訪問により、学校における読書活動の現状を把握・理解してもらっているという実感がある。子どもたちの生活において、ゲームに占める時間のいくらかを、読書に充ててほしいと思っている。そこで、クラスごとに読書冊数を競ったり、学校図書館員が学年に応じた本を紹介したりして読書推進に努め

ている。学校図書員の業務が本の受入れから授業支援まで多岐にわたっており、負担は大きいと感じている。

会長) 学校間の情報共有が大切であり、その部分を連携しているのが学校図書館事業推進アドバイザーということであるが、どのような情報を集めれば良いかなど、学校図書館事業推進アドバイザーが活動しやすい環境を整えられるよう、協議会でも意見していきたい。その他にいかがか。

委員) 読書通帳が現在書き込み式だが、パソコンで取り込みが簡便になるなど機能をアップしてはいかがか。

説明員) 現在のシステムにはないが、通帳タイプなどの機能を備えているシステムはある。費用や運用についてなどの課題がある。システム更新時の課題として考えたい。

委員) 「第三次志木市子ども読書活動推進計画」に“子ども読書活動を推進するためのボランティアの育成と新規養成”とあるが、具体的な計画はあるのか。マンパワーの不足が大きいという意見があったので、新しいボランティアの育成を考えているかを知りたい。

説明員) 現在は読み聞かせや書架整理など図書館で活動するボランティアの育成については行っているが、学校側でマンパワー不足を補うため、図書館で養成したボランティアの受入れへのニーズや課題などについて整理できれば、学校で活動するボランティアの育成についても今後検討していきたいと考える。

委員) 信用などの面から保護者以外の人が学校でボランティア活動することが難しい。殆どの保護者が働いているので学校でボランティアを募っても年々応募する人が減少している。学校は信用できる人に来てほしいという要望があると思うので、図書館から派遣されたボランティアだと学校も受け入れやすいのではないか。

会長) 学校と図書館の仲介を学校図書館事業推進アドバイザーが行い、図書館で養成したボランティアを学校に派遣する。実現の可能性が高い方策のように感じる。

説明員) 今すぐには実現することは難しいと思うが、いただいたご意見を参考に読書活動の推進に取り組んでいきたい。

会長) 学社融合施設であるいろは遊学図書館はいかがか。

説明員) 学校の連携については、志木中学校の図書委員が作成したおすすめする本のPOPを掲示したり、志木小学校の先生がおすすめする本を紹介したりするなど行っている。図書館と児童はもちろんのこと、図書館と教員が結び付いていくなかで、授業で図書館を活用してもらうような仕組みを作りたい。学社融合施設という特色を活かした取り組みをしていきたい。

ボランティアについては、ボランティアを集めること、ボランティア活動を続けていただくことは難しいと感じている。ただ、小・中学生のボランティアもおり、

活動してもらっている。図書館と個人の結びつきを組織立てることにより、学校への支援につなげていければ良いと考えている。

会長) 図書室はいかがか。

説明員) 公民館から学校への働きかけは特に行っていないが、毎年小学校が授業の一環として図書室見学に来る。ボランティアについては、ファミリーで楽しむことをコンセプトにお父さんが参加しやすいよう、男性が主体で読み聞かせを行うボランティアグループがある。読み聞かせだけでなく絵本を使って楽しむという活動をしている。

説明員) 市立学校との連携については、学校の図書室見学が主なものである。高校との連携については、細田学園の高校生が本を紹介するために作成してもらったPOPを掲示している。また、志木高校の生徒が講師となっている公民館事業も多数ある。このような若い世代との連携も図書室運営に活かしていきたい。

会長) 図書館・図書室の活動や学校との連携について情報共有しながら、今回のテーマである学校支援に対して助言していければと思う。他にいかがか。

委員) 学校での読み聞かせボランティアの経験がある方に聞いたところ、子どもたちが熱心に聴いてくれた、とのことであった。自分で読むだけでなく人に読んでもらう時間も貴重ではないか。ボランティアについては、地域でボランティア活動したいという人は少なくないと思う。ただ、何をしたいのかがわからないということもあると思うので、養成講座のような機会を設けることも良いのではないか。また、実際の活動に不安がある人にはアドバイスしてくれる人がいるとボランティア活動を始めやすくなるのではないか。

会長) ボランティアをスタートしたいという気持ちの^{いとぐち}緒をつかめるような機会があればボランティアを確保できるかもしれないと。

委員) ボランティアを募っても、同じような人が参加している状況があることが気になっている。新しい力を確保できる取り組みを是非実施してほしい。

4 その他

説明員) 現在の図書館協議会委員の任期が本年8月31日で満了となる。

5 閉会